

「夢の芽生える文化」  
創造のプラットホーム。  
「八雲志人館」は、  
「価値創造地域」の  
母体をめざして活動します。

# 日本遺産認定 出雲國たら風土記

4月25日に発表された2016年度「日本遺産」に、島根県雲南市・安来市・奥出雲町が共同申請した「出雲國（いずものくに）たら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」が認定されました。優れた鉄が生産されただけでなく、原料の砂鉄採取跡地を棚田に再生して仁多米、出雲そばなどの食文化を生んだこと、鉄の流通によって茶業、茶道、神楽や民謡などの文化も育み、現在も受け継がれていることなどが評価されたものです。

## 文化財を「面」としてつなないだストーリー



菅谷たら高殿



田部家土藏群



金屋子神社

雲地域では、およそ1400年  
前から盛んに製鉄が行なわれて

「以上の諸郷から出すところの鉄  
（まがね）は堅く、尤（もつと）  
も雑具を造るのに堪（た）える  
とあります。

●安来市8件——シラサギに乗て桂の木に降り立つた、たたらの神様を祭った「金屋子（かなやご）神社」（安来市広瀬町）、和鋼博物館の「たたら製鉄用具」（同市奥出雲町）、どじょうすくい踊りとともに全国に知られている「民謡節」など。

●奥出雲町15件——「玉鋼（たまがね）」製造（たたら吹き）伝承（奥出雲町大呂）、「たたら製鉄及び棚田の文化的景観」、鉄師頭取の「櫻井家・絲原家の住宅」、名勝・天然記念物の大渓谷「鬼舌振（おにのしたぶる）」など。

いたことを物語っています。江戸時代後半から明治にかけての最期には、全国のおよそ8割の鉄が出雲を中心とした中国山地の麓つくられていたとのことです。

しかし、高炉を用いる近代洋製鉄により安価な鉄が大量に流れるようになると経営が行き詰り、1925（大正14）年、たら製鉄はいつたん途絶えます。1931年（昭和6年）の満州事変を機に戦争が拡大すると、軍刀を需要に応えるために復活しますが、それも終戦で廃止。その後1977年（昭和52年）、日本刀剣保存協会（日刀保）が、一本刀をつくるのになくてはならない玉鋼生産と、技術保存のため奥出雲町大呂に残っていた戦時のたらを「日刀保たら」として復活させ、毎年冬に数回操業しています。奥出雲町は「世界で一たら製鉄の炎があがる町」として知られています。

「たら製鉄」とは、粘土で作った炉に、砂鉄と木炭を交互にべながら燃焼させ、鉄を得る古来の製鉄技術のこと。出雲でされる良質な砂鉄と木炭を、炉で昼夜もの間、燃焼させることよつて純度が高く、鋳びることない鉄をつくり出します。

中國山地は不純物の少ない優れた真砂（まさ）砂鉄の産地で、鉄用の燃料となる木炭をつくるための山林資源にも恵まれています。

たら製鉄の原料となる砂鉄江戸時代中期から、山を切り崩水路に流すという「鉄穴（かんな）流し」という方法で採取するようになりました。まず山裾に点々ため池をつくり樋（水路）を掘り冬の雪がもたらす豊かな水を利用して、水路と池に大量の水と削た土砂を流し、砂より重い砂鉄採るという「比重選鉱法」と呼れる方法です。

今、鉄穴流しの跡地には広大

「日本棚田百選」に選ばれた奥山重野の棚田（十勝新田）

た、100人～200人規模の小さな鉱山町がありました。雲南市吉田町には、「菅谷たら高殿（製鉄所跡）」と、その周囲の山内の様子が日本で唯一現存しています。

「今もなお、この地は先人がたら製鉄千年の歩みの中で生み出した特徴豊かな地域の文化と産業、自然景観に満ち溢れ、終わることのない物語を紡ぎ続けています」（鉄の道文化圏推進協議会公式サイトより）。

（交易場修）

（後記）

「ゆう科学通信」は皆様からのご意見、情報を確に発信していきます。  
ご投稿はメール、ファックスでお願いいたします。

ことのない物語を継続していく  
す」（鉄の道文化圏推進協議会公  
式サイトより）。

(交易場修)

「後記」  
「ゆう科学通信」は皆様からの  
ご意見、情報を礎に発信してい  
きます。  
ご投稿はメール、ファックスで  
お願いいたします。



鬼神（きしん） 神社の巨岩

ヤマタノオロチ退治へと展開する幕開けのシーンです。

地元では、スサノオが箸を拾つたのは、JR木次（きすき）線木次駅近くの八岐大蛇（ヤマタノオロチ）公園あたりの斐伊川と伝わっています。島髪（船通山付近）からは相當下流になります。神話と伝承が必ずしも一致しないことはよくあることで、そのズレに事実の欠片（かけら）が潜んでいることもあります。着目したいのは、天降ったスサノオが斐伊川を上つていつたということ、つまり下流からさかのぼつていつたことです。

神話に刻まれた「鉄の道」

たたら製鉄の「たたら」という言葉の語源について、中央アジアの遊牧民「タタール」との関連を指摘する説があります。また、古代インド語のサン스크リット語では熱を「タータラ」というそうです。古代朝鮮語では「タタラ」は「もつと加熱する」という意味があるということです。いずれにしても「たたら」という言葉は、製鉄技術が中央アジアからインド・中国・朝鮮半島を経て日本列島に伝わってきたことを物語っており、人類大移動のストーリーを秘めています。

2015年1月、ロシア西部・モスクワの南東数百キロに位置するタタルスタン共和国の視察団が、タタール人と「たたら製鉄」の関連を調べるため、島根県雲南省吉田町や安来市を訪れました。同国のミンニハノフ大統領が、自国の国名と発音が似ていることから関連を調べようと、学術関係者3人を派遣したもの。そのうちの一人の歴史学者は、「タタルスタンにはヤマタノオロチ伝説とよく似た龍を退治する伝説がある」と指摘しました。

岩に化したと伝わる巨岩が鎮座しています。「鬼神」は「木神」ではないかという説もあるそうです。奥出雲町横田の伊賀多氣神社、同町佐白の伊賀武神社もイソタケルが祭神で、奥出雲の地と「植林の神様」との縁の深さがしのばれます。

時代は下り、オオクニヌシノミコトが「国譲り」をした後、アマテラスオオミカミの孫のニニギノミコトが「ツヅキ紫(つくし)」の日向(ひむか)の高千穂の久土布流多気(くじふるたけ)に天降ったという「天孫降臨」の神話が『古事記』に出てきます。高千穂は、宮崎県の高千穂であるといふ説と、九州南部の霧島連峰のひと

**金属と人類の縁は**

ここで、鉄を含む金属と人類との  
わりを、悠久の時をさかのぼって見  
みましょう。

世界における金属の発祥地は、北  
豊富な鉱石産地をもつメソポタミア  
方（現在のイラン・イラク・トル  
とされ、人類が最初に道具として利  
を始めた金属は銅といわれています。  
銀は装飾品として用いられ、金は紀  
前6000年頃、メソポタミア南部  
古代シユメールで、すでに金装飾が  
されていたという説もあります。銀  
古代において主に現在のトルコのアナ  
リア地方で採掘され、ギリシャなど  
西方社会へと運ばれてきました。

An illustration depicting an ancient bronze casting process. A large, rectangular bronze vessel sits on a furnace, with molten metal being poured from a ladle into its mold. A craftsman in traditional blue clothing and a mask stands behind the vessel, holding a long wooden tool. The scene is set outdoors, with smoke and flames visible around the furnace.

# 観光（平和環境健康 産業）に追い風

緒に大陸から導入されたといわれています。最初は青銅や鉄の製品が来、そして1～2世紀頃、朝鮮半島から技術者集団が移住し、太宰府から輸入した原料を用いて造品や鍛造品を加工する段階にみ、次いで5世紀頃から、出雲などで「たたら吹き」による精錬で原鉄を生産する段階に至つたと推されています。

An illustration depicting the ancient craft of bronze casting. A large, rectangular bronze vessel sits on a furnace, with intense orange and yellow flames visible at its base. A craftsman, dressed in traditional blue robes and a headband, stands to the right, holding a long wooden tool or ladle. He appears to be pouring molten metal from a ladle into the vessel. The background is a simple, light-colored wall.

今期木  
に向け、2006年一出雲大社御遷宮奉賛会設立準備委員会の発足から始まり、「出雲國たら風土記」の「日本遺産」認定、映画「たら侍」公開、「出雲たら村」オープンと、今、八雲立つ出雲に注目が集まっています。

5月24日、ノルウェーの平和学者、ヨハン・ガルトゥング博士が緊急来日し、東京で講演を行いました。博士は、直接的暴力の戦争がないだけでなく、貧困、抑圧、差別など構造的・文化的な暴力のない「積極的平和主義」を提唱、「現代平和学の父」と呼ばれています。「現在の日本は外交的、経済的に危機に陥っている」と指摘し、「専守防衛の方針を明確にしたうえで、積極的

緒に大陸から導入されたといわれています。最初は青銅や鉄の製品が来、そして1～2世紀頃、朝鮮半島から技術者集団が移住し、太や半島から輸入した原料を用いて造品や鍛造品を加工する段階に、次いで5世紀頃から、出雲などで「たたら吹き」による精錬で原の鉄を生産する段階に至つたと推されています。

また、「アメリカ社会に沖縄の問題の緊急性と民主主義に反した実態を知らせ、その責任を問う」ことを目指し、ジャン・ Yunca-マン監督の映画「沖縄うりすんの雨」の「ヘアメリカ上映版▽制作＆全米上映プロジェクト」が進行中です。リガードの西晶子さんによる、クラウドファンディングで資金の一部を募る呼びかけを受け、人間自然科学研究所の小松昭夫理事長は「核拡散・クラウド・国際分業の時代に、新しい『和の文化』が生まれるきっかけのひとつになる」と支援を行いました。



**一万2000年前から**

今期一木に向け、2006年「出雲大社御遷宮奉賛会設立準備委員会」の発足から始まり、「出雲國たら風土記」の「日本遺産」認定、映画「たら侍」公開、「出雲たら村」オープント、今、八